

新型インフルエンザ対策について

新型インフルエンザ(A/H1N1)の特徴について

○季節性インフルエンザと類似した点が多い。

- ①感染力は強いが、多くの感染者は軽症のまま回復
- ②治療薬(タミフル、リレンザ)が有効

○しかしながら、

- ①基礎疾患(糖尿病、ぜん息等)を有する者、小児等は、重症化する可能性が高い
- ②国民の大多数に免疫がなく、感染が拡大するおそれ大きい

新型インフルエンザの状況

【特徴】

基礎疾患(糖尿病、ぜん息等)を有する者、小児等で重症化のおそれ

(注:季節性インフルエンザでは高齢者が重症化のおそれ)

【流行の状況】

新型インフルエンザは、本格的な流行期入り

	11/16-11/22	11/23-11/29	11/30-12/6	12/7-12/13
インフルエンザ定点医療機関当たり報告数(総数)	38.89	39.63	31.82	27.39
(上記から推計された全国の受診患者数:	約173万人	約189万人	約150万人	約132万人)※1
(同時期に報告のあった入院患者数:	1453人	1384人	1091人	799人)※2
今後、感染がまん延していくおそれ	7/6~12/13の累積の推計患者数1546万人)※3			



※1国立感染症研究所情報センター発表
 ※2厚生労働省「インフルエンザ入院サーベイランス」データ
 12月16日時点
 ※3※1同。第28週～第50週の累計

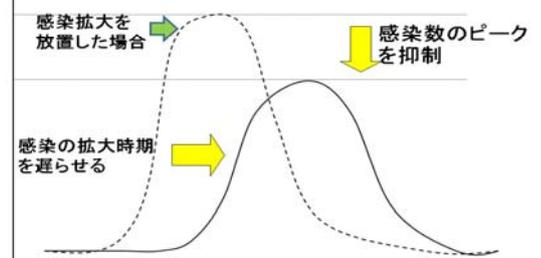
対策の基本的考え方

○ 基礎疾患を有する者等の重症化しやすい者を守り、死亡者や重症者の発生をできるだけ抑制する

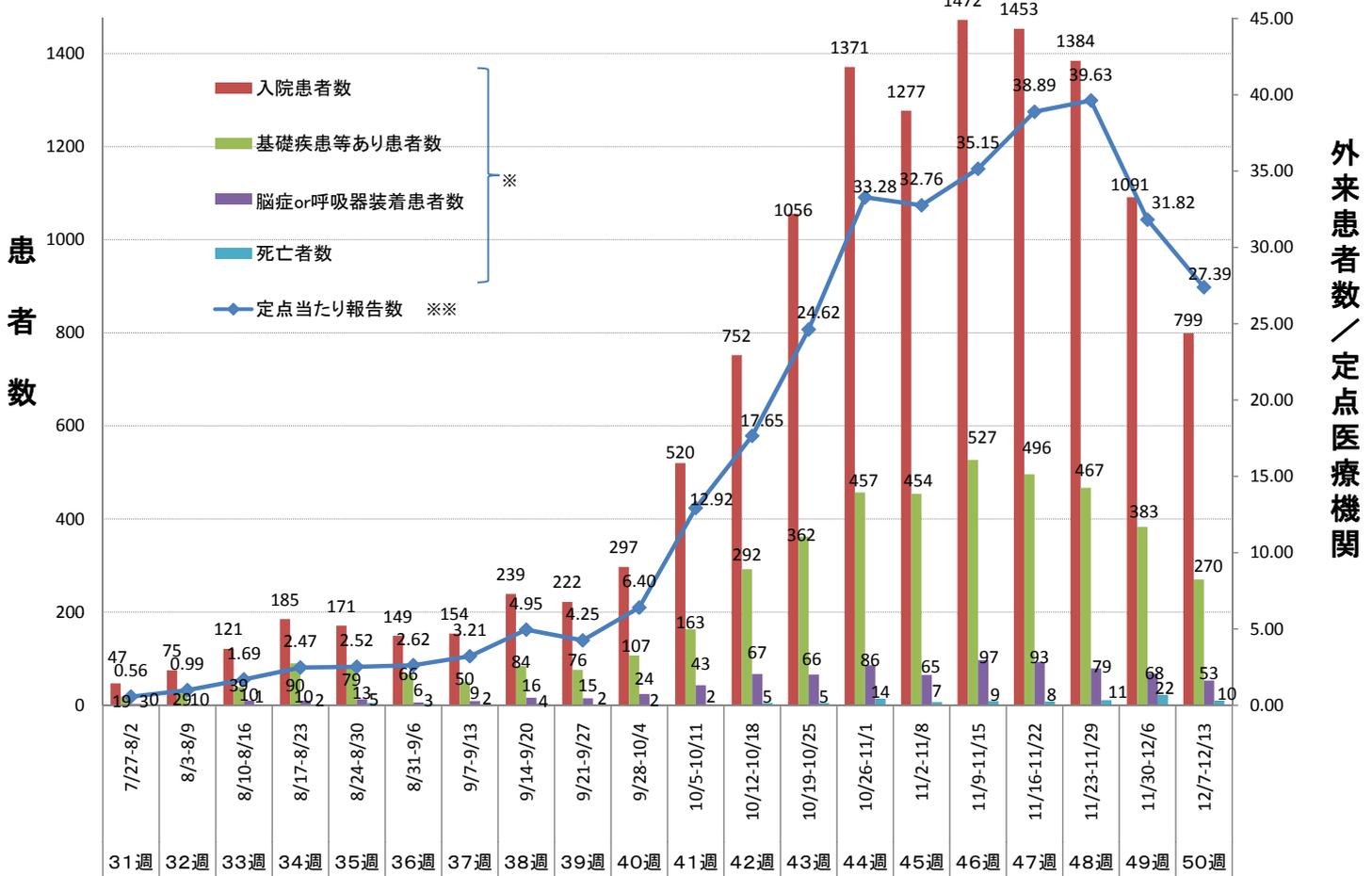
⇒ 患者数の急激で大規模な増加をできるだけ抑制し、社会活動の停滞や医療提供体制への影響を低減

⇒ 医療機関の負担を可能な限り減らし、重症患者に対する適切な医療を確保

患者数の急激で大規模な増加を抑制・緩和



新型インフルエンザ発生状況の推移 —平成21年12月18日時点—



※ 厚生労働省 新型インフルエンザ入院サーベイランスによる週あたりの報告数

※※ 厚生労働省 感染症発生動向調査インフルエンザ定点医療機関における週あたりの外来患者報告数

新型インフルエンザ対策(ポイント)

以下の対策を組み合わせ、総合的に対策を実施

○地方自治体と連携した適切な感染防止対策の実施

⇒ 学校、施設等における感染防止対策の徹底、院内感染の防止 等

○大規模な流行に対応した医療体制の整備

⇒ 重症化防止を最優先とする医療体制の整備(病床の確保、診療体制の充実等)

○ワクチンの確保と接種の実施

⇒ 重症化の防止を目的に、必要量を確保し、ワクチン接種を順次実施
(10月中旬～)

○的確なサーベイランス

⇒ 重症患者、死亡者の把握並びにウイルス性状の変化の探知に重点を置いて実施

○広報の積極的展開

⇒ 全国民対象に感染予防のための基本メッセージ(手洗い、うがいの励行、咳エチケット等)を伝達基礎疾患等をお持ちの方々への注意喚起を継続

ワクチン接種について